

ちどり 令和6年8月度特別作品

母 ちどり

私の母は、九十七歳です。膝が悪いので車椅子ですが、元気に暮らしています。以前は、私が通いながら、母は田舎で一人で生活していました。けれども、去年の四月、私が体調を崩してから、施設で暮らすようになり、そこを頻りに訪ねています。施設では、歌やダンスなどの催しがあり、また、昨日は久しぶりに、母を田舎の家で連れて戻りました。私にとって、母と過ごす時間は、とても貴重で幸せな時間です。

風呂敷で衣類を運び衣更ふ

ハモニカに合はす懐メロ風薫る

食堂でみんなと食ぶる筍飯

腰掛けてダンスの後の麦茶飲む

昼寝覚母はこっこつ刺子して

新緑や母の家まであと少し

夏座敷まづ仏壇を拝む母

故郷の紫陽花活くる母の部屋

玄葵幼子庭をかけ回り

横に母乗せて戻るや青田道

《作品鑑賞》

綾乃

故郷やお母様の多彩な御句が印象的なちどりさん。特別作品ではお母様と施設から自宅に戻られたある日が、あたたく丁寧な詠まれています。

ハモニカに合はす懐メロ風薫る

食堂でみんなと食ぶる筍飯

懐かしいメロディーや、季節のご馳走を楽しみながら、お母様が施設の生活を入居者やスタッフと送っておられる様子が伝わります。お出かけの浮き立つ気持ちをハモニカが盛り上げています。

夏座敷まづ仏壇を拝む母

故郷の紫陽花活くる母の部屋

戻られた田舎の家は季節のしつらえがされており、お母様の心がほとけ、おつとめを行われる姿や、花に微笑まれる様子が目に浮かびます。

横に母乗せて戻るや青田道

少し疲れた帰り道、季節青田道が効いて、美しい田園風景の中の幸せなご家族の姿が見えてきます。年齢を重ねることや介護について、力を与えてくれる作品と感じました。